●リナックスマニアックス

Linux MANIAX

ハイレベルでマニアック(本誌比)なコーナー。
今回は現在も遊ばれているゲーム機を
エミュレータで再現する方法を紹介する。

高価なゲーム機を購入しなくても楽しめる!

現役ゲーム機を「エミュ」でプレイする!

名作ぞろいのPS2をLinux上で遊ぶ!

PS2エミュレータはいくつか存在したが、現在も開発が続いているのは「PCSX2」というエミュレータのみだ。開発期間が長い分、完成度も高くなっており、今では実機と同じように動作するソフトも多い。ただし、Linux版はWindows版よりもプラグインが少なく、設定の幅が狭まっている。「PCSX2」では、ソフトにあわせてプラグインをいかに設定するかがゲーム起動のキモになってくるため、Linux版はWindows版に比べると起動率が多少悪い。また、マシンスペックが低いと3Dの描写に時間がかかり、スムーズに動作しないことがある。とくにCPUとビデオカードの性能が低いと、ゲームプレイは困難なので注意しよう。

PS2エミュレータはほぼ完成しており、ゲームも十分楽しめる!

PlayStation2情報

PS2は2000年から約10年にわたって圧倒的人気を誇ったゲーム機。PS3の登場後の現在でも、新作ソフトが発売されている。今なお多くの人が遊んでいる現役のゲーム機だ。

メーカー■ソニー
発売日■2000年3月4日
売上台数■2,000万台

急激に開発が進んでいるWiiエミュレータでゲームを起動!

Wiiは「Dolphin」というエミュレータがもっとも活発に開発が進められている。Dolphinはもともとゲームキューブのエミュレータとして開発されていたが、今ではWiiエミュとして使われることが多い。肝心のゲーム再現度はかなり高く、起動さえすればほとんどのゲームが実機と同程度に楽しめる。本体プログラムは、32bit版と64bit版のふたつが開発されており、どちらの環境でも利用できる。ただし、32bit版は不安定で、ゲームを起動してもエラーで遊べないことが多い。そのため、Dolphinでゲームをプレイするなら、最初に64bit版のUbuntuをインストールすることになる。

まだ不安定な部分もあるが、ゲームのプレイは可能!

Wii情報

発売当初はPS3やXBOX 360の売り上げを圧倒的に引き離していた人気ゲーム機。センサーを用いてコントローラを振って操作するという独特のスタイルを確立したが、エミュでは再現困難なのが残念だ。

メーカー■任天堂
発売日■2006年12月2日
売上台数■1,000万台

基本 エミュの起動に必要なものと設定手順

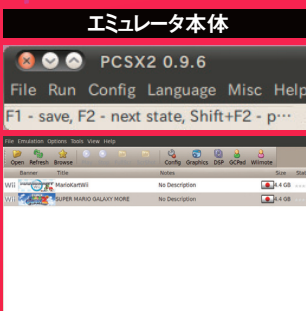
Linuxでエミュレータを利用するには「エミュレータ本体」「ROMファイル・ゲームソフト」「BIOSファイル」「コントローラ」の4つがまずは必要になる。さらにWiiやPS2のエミュレータは起動にさまざまなファイルを必要とするため、これらもインストールしておく必要がある。準備が整ってエミュレータが起動できたら、今度はプラグインを設定する。プラグイン設定ではウインドウのサイズやコントローラのボタン割り当てなどを行なう。そして、最後にROMファイルを登録したら設定完了だ。あとはROMファイルを読み込めばゲームが起動する。ただし、どちらも開発途上であるため、正しく設定しても起動しないソフトがある。

エミュレータでゲームを起動するまでの流れ

準備
❶仮想化ソフトのインストール
↓
❷エミュレータの起動に必要なファイルをインストール
↓
設定
❸プラグインの設定
↓
❹ROMファイルの登録
↓
起動
❺ROMファイルを読み込む
↓
❻ゲーム起動

ゲームの起動に必要なもの

エミュレータ本体

PCSX2 0.9.6
File Run Config Language Misc Help
F1 - save, F2 - next state, Shift+F2 - p…

PS2は「PCSX2」、Wiiは「Dolphin」がそれぞれ必要になる。

ROMファイル・ゲームソフト

Wiiの場合はゲームソフトを特殊な方法でISO化したROMファイルが必要。

PS2はISOファイルとゲームディスクのどちらからでも起動可能。

BIOSファイル

scph10000.bin

PS2のみBIOSファイルを用意しなければならない。BIOSにはいくつか種類があるが、どれを利用しても大丈夫だ。

コントローラ

コントローラは市販のゲームパッドでもよいが、UbuntuではXBOX 360やPS3のコントローラも利用できる。

準備 「XBOX 360」のコントローラをUbuntuで使う

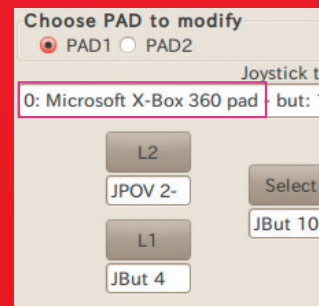
Ubuntuを起動しているパソコンにXBOX 360のコントローラを接続すると、とくに設定をしなくてもすぐに利用できる。なお、XBOX 360コントローラはワイヤレスのものも存在するが、有線形式の方が安定して使用できるぞ。

XBOX 360コントローラは3,000円と安い。優れたコントローラをリーズナブルに入手したいならオススメだ。

XBOX 360コントローラ
メーカー■マイクロソフト
実勢価格■3,000円

01 USBポートに接続

USB接続型のXBOX 360コントローラをUSBポートに接続する。

02 エミュレータで設定

自動で認識するので、エミュのコントローラプラグイン設定を開いて設定しよう。

準備 「PS3」のコントローラをUbuntuで使う

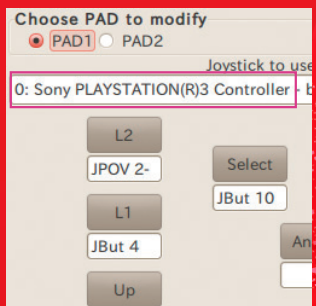
PS3コントローラもXBOX 360コントローラと同じようにUSB接続するだけで利用できる。PS3コントローラはPS・PS2のコントローラとほぼ同じ形をしているので、これらのゲーム機で遊んだことがあるならすぐ手に馴染むはずだ。

PS3コントローラは価格が高いものの、XBOX 360コントローラに比べるとコンパクトで持ちやすい。

PS3コントローラ(SIXAXIS)
メーカー■ソニー
実勢価格■4,380円

01 USBポートに接続

PS3コントローラをUSBケーブルを使ってパソコンと接続する。

02 エミュレータで設定

XBOX 360コントローラと同じように自動認識するので、エミュでボタンを割り当てよう。

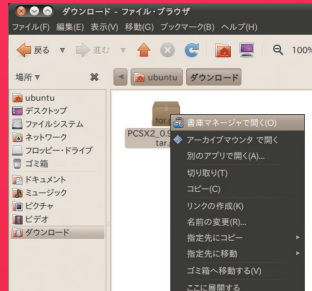
PS2ソフトをLinux上でプレイする!

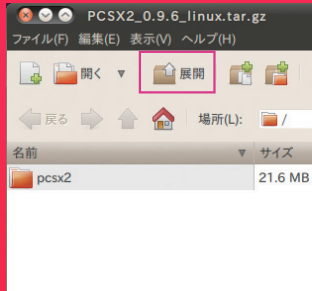
PS2エミュレータは高性能なCPUとビデオカードさえあれば実機と同じように遊べるソフトが多い。起動しないソフトがあった場合はプラグインの設定などを変えてみよう。

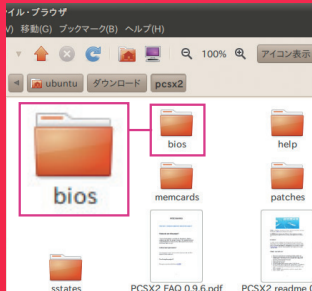
準備 PS2エミュレータ「PCSX2」を導入する

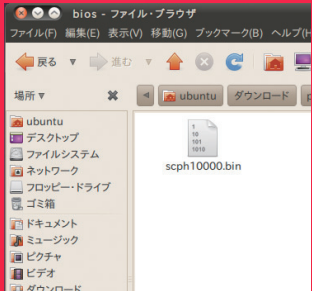
PCSX2は公式サイトで配布されているものを解凍し、その中にある「bios」フォルダにBIOSファイルをコピーしてから起動する。ただし、PCSX2に含まれる一部のプラグインを利用するにはいくつかのパッケージをインストールしておく必要があるので、PCSX2を起動する前に導入しておこう。

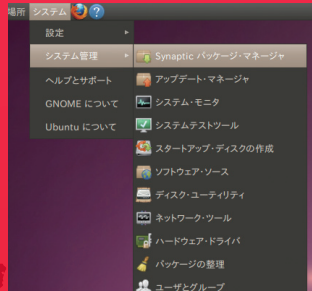
PCSX2
作者>PCSX2 Team
ファイル名>PCSX2_0.9.6_linux.tar.gz
URL>http://pcsx2.net/

01 PCSX2を書庫マネージャで開く

PCSX2を入手したら右クリックして、「書庫マネージャで開く」を選択。

02 PCSX2を解凍する

「展開」ボタンをクリックして「pcsx2」フォルダを解凍する。

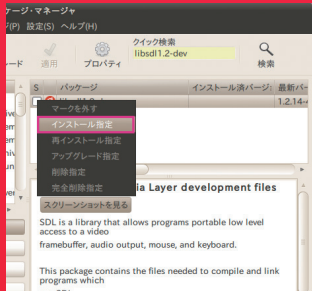
03 biosフォルダを開く

「pcsx2」フォルダ内に「bios」フォルダがあるので、それを開く。

04 BIOSをコピー

開いた「bios」フォルダ内にPS2のBIOSファイルをコピーする。

05 Synapticを開く

「システム」→「システム管理」→「Synapticパッケージ・マネージャ」を開く。

06 必要パッケージを検索

「クイック検索」を利用して、上に記載した各パッケージを検索する。

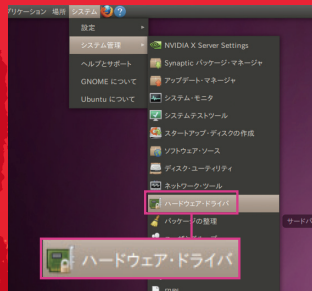
07 パッケージをインストール指定

パッケージが見つかったら、「インストール指定」を選択する。

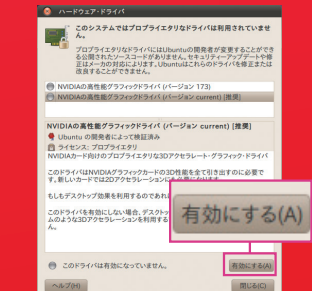
08 パッケージをインストール

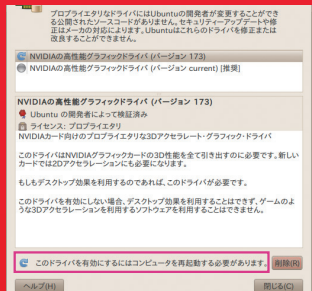
「適用」ボタンをクリックして4つのパッケージをインストールする。

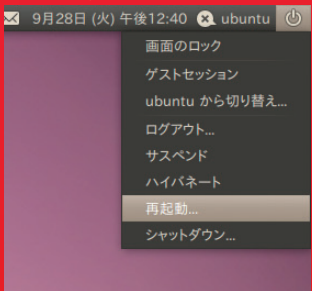
準備 ビデオカードのドライバを変更する

PCSX2でゲームをプレイするにはビデオカードのドライバをビデオカードメーカーが提供する高性能なものにしなければならない。高性能ドライバは「システム」→「システム管理」→「ハードウエア・ドライバ」から探して簡単にインストールできるはずだ。インストールが完了したら、パソコンを再起動して有効化しよう。

01 ハードウエア・ドライバを開く

「システム」→「システム管理」→「ハードウエア・ドライバ」を開く。

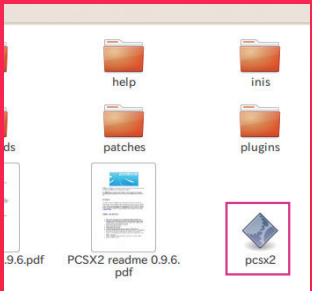
02 ドライバを有効にする

ドライバが見つかったら「有効にする」ボタンをクリックする。

03 ドライバのダウンロード完了

ドライバがダウンロードされ、「このドライバを有効にするには～」と表示されれば完了。

04 再起動してドライバを有効化

Ubuntuを再起動するとドライバが有効になっているはずだ。

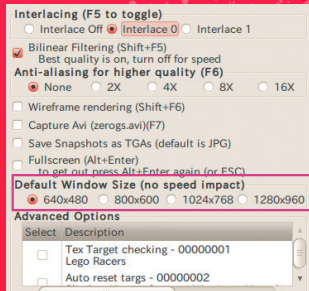
設定 PCSX2を起動してプラグインの設定

すべての準備が完了したら「pcsx2」フォルダ内にある「pcsx2」をダブルクリックするとPCSX2が起動する。PCSX2の初回起動時は、プラグインの設定画面が開くはずだ。プラグインの設定は、すべてそのままにしておいてもゲームは遊べるが、「グラフィックプラグイン」「コントローラプラグイン」「CDROMプラグイン」の3つだけは、ゲームの起動や動作に大きく関わるので、設定を変更しておいたほうがよい。

01 PCSX2を起動

「pcsx2」フォルダ内にある「pcsx2」をダブルクリックする。

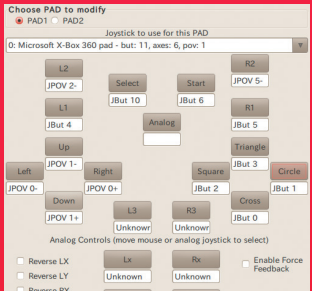
02 グラフィックプラグインの設定を開く

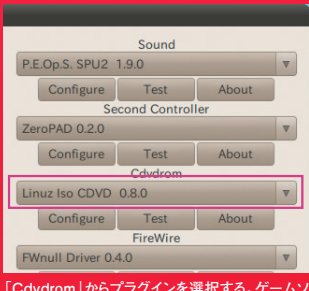
「Graphics」の「Configure」ボタンをクリックして設定画面を開く。

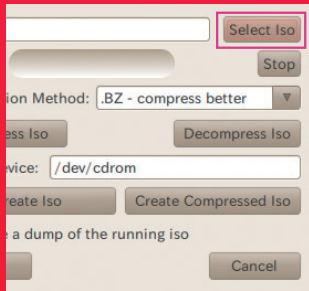
03 ゲームウインドウのサイズを決める

「Default Windows Size」からゲームウインドウのサイズを選択する。

04 コントローラプラグインの設定を開く

「First Controller」の「Configure」ボタンをクリックして設定画面を開く。

05 ボタンを割り当てる

ゲームコントローラを選び、ボタンをそれぞれ登録して割り当てていく。

06 CD-ROMプラグインを決める

「Cdvdrom」からプラグインを選択する。ゲームソフトから直接ゲームを読み込むものやISOから起動するプラグインがある。

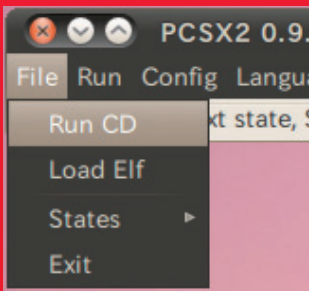
07 必要に応じてISOを指定する

ISOからゲームを起動するプラグインを選択した場合は「Configure」を開きISOを指定する。

起動 PCSX2でゲームを起動する

プラグインの設定が完了したら、「File」→「Run CD」を選択するとゲームが起動できる。もしゲームが起動しない場合はプラグインの設定ミスと未対応ゲームのふたつの原因が考えられる。この原因を突き止めるには、いったんゲームソフトを取り出して、もう一度「Run CD」を選択してみよう。これでPS2のBIOSが起動するような、読み込ませなかったゲームが未対応だったということがわかる。また、BIOS画面も開かない場合はプラグインの設定を間違えている可能性が高い。

01 ゲームソフトを挿入

ゲームソフトからゲームを起動する場合は光学ドライブにゲームソフトを挿入する。

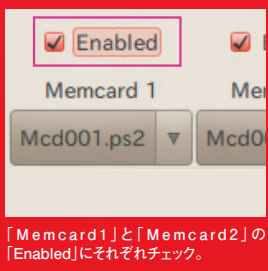
02 ゲームを読み込む

「File」→「Run CD」を選択すると、ゲームが起動するはずだ。

Column BIOSを開いてメモリーカードを管理

PS2のBIOSを開くとメモリーカードの管理ができる。ただし、メモリーカードはPCSX2で有効にしておかないと利用できないので、メモリーカードにトラブルがある場合は、設定を見直してみよう。

01 メモリーカード設定を開く

メニューの「Config」→「Memcards」からメモリーカードの設定を開く。

02 メモリーカードを有効にしておく

「Memcard1」と「Memcard2」の「Enabled」にそれぞれチェック。

03 BIOSを開く

BIOSを開き、「ブラウザ」を選択するとメモリーカードの管理ができる。

Wiiソフトをエミュレータで起動する!

Wiiエミュレータもなら、CPUとビデオカードが高性能なら、いくつかのゲームが快適に遊べる。
ただし、Wiiの特殊なコントローラを通常のコントローラに割り当てるのはなかなか困難だ。

準備 64bit版のUbuntuをインストール

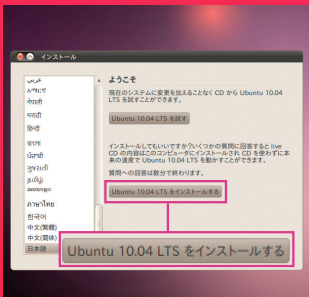
Wiiエミュレータは32bit版と64bit版のふたつがある。しかし、64bit版のUbuntuでないと安定して動作しないため、最初に64bit版のUbuntuをインストールしておく。

インストールの方法は32bit版と同じ。64bit版のインストールディスクを起動して、ウィザードに従って操作を進めていくだけだ。

01 64bit版Ubuntuを入手

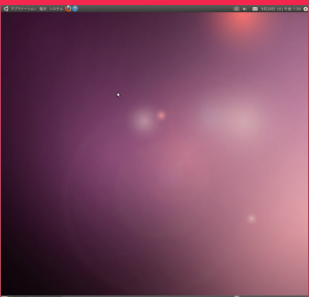
Ubuntu Desktop Edition
http://www.ubuntu.com/desktop/get-ubuntu/download

64bit版のUbuntuを公式サイトからダウンロードして、CD-Rに書き込む。

02 インストールCDを起動

インストールCDを起動して、「Ubuntu 10.04 LTSをインストールする」を選択。

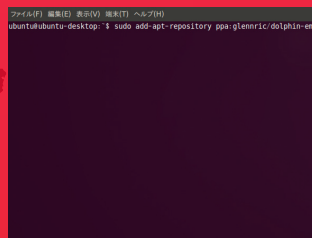
03 ウィザードに従ってインストール

あとはウィザードに従って必要項目を入力し、インストールしよう。

04 インストール完了

インストールが完了したら、起動してみよう。32bit版と同じデスクトップが開くはずだ。

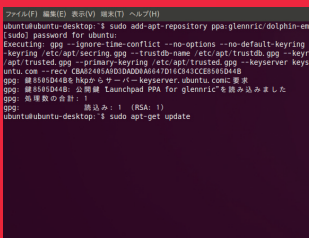
準備 Wiiエミュレータ「Dolphin」を導入する

「Dolphin」を導入するには端末を起動してPPAを追加し、そこからインストールする。インストールが完了すると、「アプリケーション」→「ゲーム」→「Dolphin-emu」から起動できるようになっている。ただし、DolphinもPS2のエミュと同じようにビデオカードのドライバがビデオカードメーカーが提供する高性能なものでないとプレイできないので先に有効化しておこう。

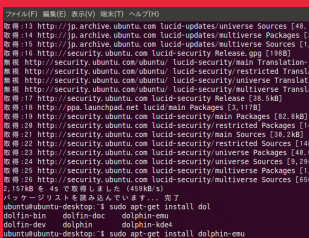
Dolphin
作者>Dolphin Team
ファイル名>なし
URL>http://www.dolphin-emu.com/

01 PPAを追加

```
sudo add-apt-repository ppa:glennric/dolphin-emu
```

端末を起動して上のコマンドを入力し、PPAを追加する。

02 アプリリストを更新

```
sudo apt-get update
```

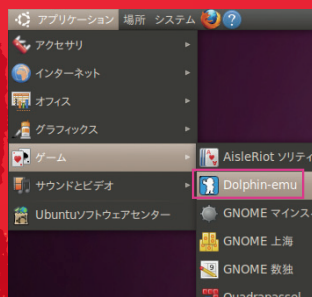
PPAが追加できたら、上のコマンドを入力してアプリリストを更新する。

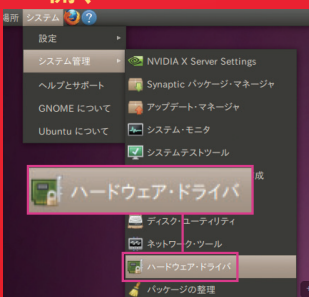
03 Dolphinをインストール

```
sudo apt-get install dolphin-emu
```

最後に上のコマンドを入力するとDolphinのインストールが始まる。

04 インストールを続行

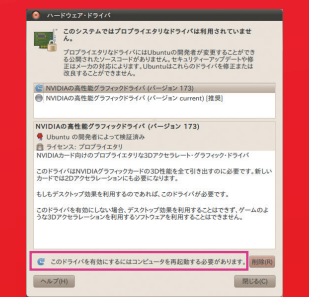
インストール途中、「続行しますか」とたずねられたら「y」と入力しよう。

05 Dolphinの導入成功

06 ハードウエア・ドライバを開く

インストールが終わると、「アプリケーション」→「ゲーム」に「Dolphin-emu」が追加されている。

「システム」→「システム管理」→「ハードウエア・ドライバ」を開く。

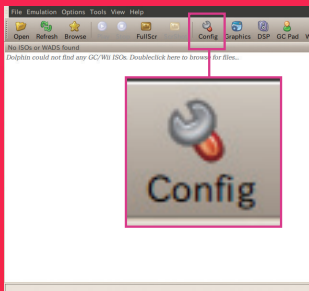
07 ドライバを有効にする

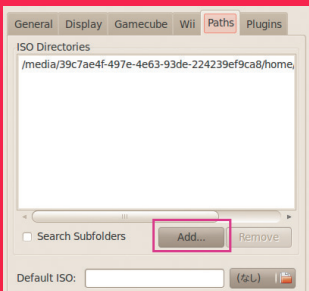
ドライバが見つかったら「有効にする」ボタンをクリックする。

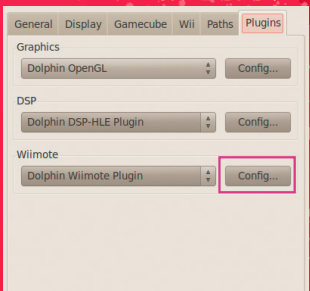
08 ドライバの導入完了

「このドライバを有効にするには～」と表示されたらパソコンを再起動しよう。

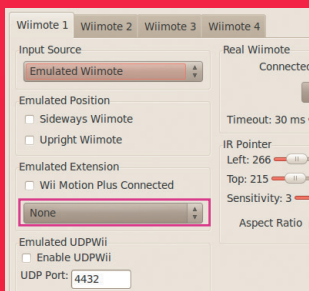
設定 Dolphinを起動して各種設定を行なう

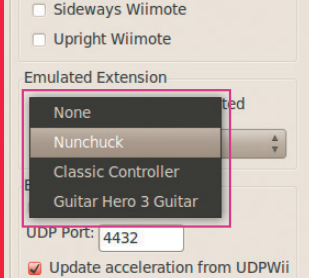
Dolphinが導入できたら、早速起動してみよう。起動するとツールバーに「Config」という項目があるはずなので、これを開いて各種設定を行なう。まず、「Paths」タブを開くと、ISOファイルのあるフォルダを登録できる。ここでフォルダを登録しなければゲームを選択できないので、最初に設定しておこう。つぎに「Plugins」タブを開く。ここではグラフィックやサウンド、コントローラの設定ができる。とくに重要なのはコントローラの設定で、これを正しくしないとプレイできないゲームもあるので注意しよう。

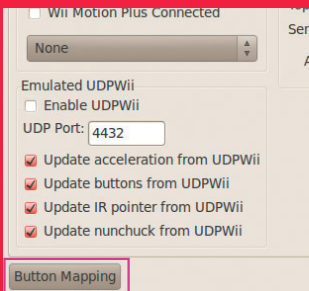
01 「Config」を開く

Dolphinを起動起動し、画面上部にあるツールバーから「Config」を開く。

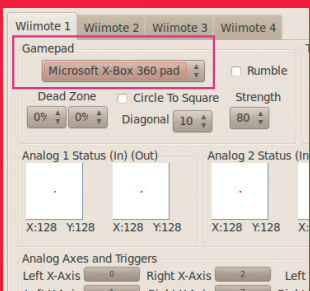
02 ISOフォルダを指定

「Paths」タブを開いて「Add」からISOファイルを保存しているフォルダを指定する。

03 コントローラのプラグイン設定を開く

「Plugins」タブを開いて「Wiimote」の「Config」ボタンを押す。

04 「None」を確認

「None」となっている部分はオプションコントローラの設定だ。

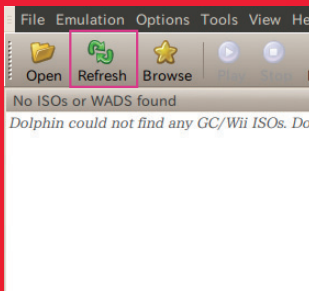
05 オプションコントローラを設定

ヌンチャクなどのオプションコントローラが必要なゲームをプレイする場合は選択しておこう。

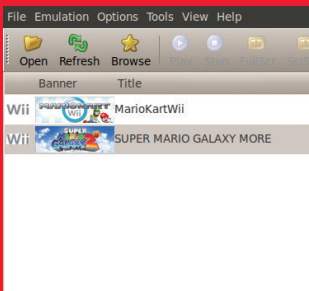
06 ボタン割り当てを開く

ウインドウ左下にある「Button Mapping」ボタンをクリックする。

07 ボタンを割り当てる

ゲームコントローラを選択して、ボタンをそれぞれ割り当てていこう。

起動 Dolphinでゲームを起動する

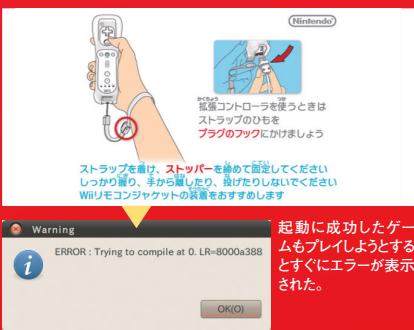
すべての設定が完了したらツールバーの「Refresh」をクリックする。すると、ISOフォルダにあったROMの一覧が表示されるはずだ。あとはプレイしたいROMを選ぶだけでゲームが起動できる。もしゲームの途中でヌンチャクやクラシックコントローラを装着するよう指示されたら、設定の「04」「05」を参考に、オプションコントローラを有効にしよう。

01 ROM一覧を更新

ツールバーの「Refresh」をクリックしてROMの一覧を更新する。

02 ROMを選択

表示されたROMを選択すると、そのゲームを起動することができる。

Column 32bit版のDolphinは不安定

32bit版のDolphinを試したところ、64bit版で起動するゲームのほとんどが起動しなかった。また、起動はできてもゲームをプレイしようとすると、すぐにエラーが表示されてゲームのプレイはできなかった。

ERROR : Trying to compile at 0. LR=8000a388

起動に成功したゲームもプレイしようとするとすぐにエラーが表示された。

Column 起動しても遊べないソフトはまだ多い

64bit版のDolphinでは多くのゲームが起動できるが、正しくメモリを読み書きできないなどの原因でプレイできないソフトも存在する。Dolphinはまだまだ開発途上なので、今後これらの不具合が修正され、多くのゲームが快適にプレイできるようになることを祈ろう。

Wii本体保存メモリの
書き込み／読み出しができませんでした。
くわしくは Wii本体の取扱説明書を
お読みください。